

01

「高知家の教育」の使命として掲げる 新たな教育大綱の3つの「目指す人間像（基本理念）」

現行の教育大綱・基本計画の「目指す人間像（基本理念）」である

「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく、夢に向かって羽ばたく人」

「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人」

は、個人が自立し、また、社会の創り手となることを目指す普遍的・不変的なものとして引き継ぐ。

そのうえで、多様性や包摂性の尊重という考え方が重視されてきていることを踏まえ、

「多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人」

を新たな人間像として掲げ、これら3つを高知県の教育が総合的に目指す人間像（基本理念）とする。

02

「目指す人間像（基本理念）」の実現に向け、 本県の現状を踏まえた3つの「基本目標」と、その進捗を測る目安となる測定指標

「目指す人間像」を実現するための「基本目標」として、従来の「知」「徳」「体」の考え方を引き継ぎつつ、より内容を明確にし、また、新たな内容を包含する趣旨等から、以下の3つの基本目標に整理する。

「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」

「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

詳細は本資料P.3以降参照

また、「基本目標」の達成を測る目安となる「測定指標」を見直し、新たに以下のような教育課題の解決等を目指す趣旨の測定指標を設定する。

「学力の定着に課題がある層の減少」、「様々な取組（勉強、運動等）に積極的に取り組もうとする意欲の向上」

「コロナ禍前の水準以上に体力を改善」、「基本的な生活習慣の定着」、「多様性・包摂性についての理解の向上」

「いじめ・暴力行為の状況の改善」、「不登校児童生徒の多様な学習の場の充実や機会の確保」

基本理念や基本目標の達成を目指して取り組む政策・施策等については、以下の4つの基本方針のもとに整理する。

- I：「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進
- II：「高知家」の子どもたちを誰一人取り残さない、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進
- III：「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進
- IV：「高知家」の教育・学びの充実に向けた各種施策を総合的・計画的に推進するために、必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備

そのうえで、各基本方針のもとに、デジタル化、グリーン化、グローバル化 という新たな時代の潮流を先取りし、政策・施策、各取組・事業のバージョンアップを行う。

詳細は資料5参照

また、社会情勢や子どもを取り巻く環境の状況の変化を踏まえて、政策・施策、各取組・事業の新設や拡充を行い、進捗を測るための指標・KPIを設定する。

詳細は資料3のP.3以降及び資料4のP.44以降参照

※各取組・事業が位置付けられるのは教育振興基本計画のみ

上記のような教育大綱・基本計画の内容を検討するにあたって、今後の教育・学校の在り方等について、教育の当事者・関係者との様々な「対話」等を実施した。

詳細は資料6参照

特に今回初めて、高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒等の若者、教職課程を履修する大学生、若年・中堅の教職員といった方々から「声」「ご意見」をいただく。

など

例えば以下のような「声」等については、内容を精査のうえ、可能な限り教育大綱・基本計画の内容にも反映する。

「個々の状況に応じた授業を実施してほしい(したい)」、「社会で必要なことを学びたい(教えたい)」、「ICTを積極的に活用したい」
「校則の見直し等にあたって児童生徒の主体性を持たせてほしい」、「教職員の働き方を見直してほしい」
など

なお、反映の状況等は、ご意見をいただいた方々に、今後順次説明をする機会を設ける予定。

※高校生等の「対話」については、令和6年度以降も、教育行政の在り方を検討するうえでの参考とするために、実施予定

【参考】 目指す人間像を実現するための基本目標と、それを測るための測定指標について 現行教育大綱等の記載と次期教育大綱等の記載案との比較

現行教育大綱等の記載

「知」の分野

◆知の目標

「子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。」

次期教育大綱等の記載案

「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

◆基本目標

「社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲を育む。

義務教育段階では、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成を図る。

また、高等学校段階では、社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力を育む。」

見直しの考え方

「知」「徳」「体」と従前示していたものを、より内容を明確にし、かつ、「知」「徳」「体」という分類では必ずしも含まれない事項を含ませるものとすることから、新たな記載に改正（以下同じ）。

義務教育と高等学校段階の教育においては、それぞれにおいて目指す「学びの姿」に異なるものがあり、その表れとして異なる測定指標を設定しているところ。その関係性を明確にするために、それぞれの段階での目指す「学び」観の違いを明示。

測定指標

①小・中学校

●全国学力・学習状況調査において、

- ・小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる。
- ・小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする。

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、
- ・小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。中学校の学力は全国平均に引き上げる。

小6年（国）	R3	R4	R5
高知県	66.9	66.3	69.3
全国	64.7	65.6	67.2
小6年（算）	R3	R4	R5
高知県	70.8	65.7	64.7
全国	70.2	63.2	62.5
小6年（理）	R4		
高知県	63.0		
全国	63.3		
中3年（国）	R3	R4	R5
高知県	63.5	67.1	68.5
全国	64.6	69.0	69.8
中3年（数）	R3	R4	R5
高知県	54.6	46.4	48.6
全国	57.2	51.4	51.0
中3年（理）	R4		
高知県	46.5		
全国	49.3		
中3年（英）	R5		
高知県	39.2		
全国	45.6		

平均正答率（％）

小学校については、実績が測定指標との関係で達成したか否かを明確にするため、「全国上位」という表現を「全国平均を継続的に1ポイント以上上回る」と設定。
 「1ポイント以上」の考え方については、令和元年度以降の高知県と全国との正答率の差をみると、国語、算数ともに全国平均を上回っているが継続して1ポイント以上上回っていない。また、理科は全国平均に達していない。この状況を踏まえ、「1ポイント以上」と設定。

現行大綱の記載

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

①小・中学校

- 全国学力・学習状況調査において、
 <小学校>
 ・D層の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
 <中学校>
 ・D層の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

小6年（国）	R3	R4	R5
高知県	18.4	19.5	21.8
全国	20.9	21.0	24.0

小6年（算）	R3	R4	R5
高知県	21.0	20.2	17.0
全国	21.6	23.7	19.5

小6年（理）	R4
高知県	22.5
全国	21.5

中3年（国）	R3	R4	R5
高知県	21.3	24.0	20.5
全国	18.6	21.3	19.4

中3年（数）	R3	R4	R5
高知県	21.3	22.8	19.1
全国	18.6	19.0	17.6

中3年（理）	R4	中3年（英）	R5
高知県	23.0	高知県	22.8
全国	19.9	全国	17.0

D層の児童生徒の割合（%）＊

＊文部科学省は、児童・生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としている。それに高知県の児童生徒の状況を当てはめて、D層の割合を示している。

見直しの考え方

前頁にて「平均」を測定指標として設定するのに加え、学力定着に課題がある層の減少を図る目的から、新たにそれを測る測定指標を追加。

測定指標

②高等学校

- 高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする（県立高等学校のうち進学に重点を置く学校を除いた29校の平均）。

- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする。

（新設）

測定指標

②高等学校

- 学力定着把握検査におけるC層＊以上の生徒の割合を65%以上とする（全県立高等学校の平均）。

高等学校	R2	R3	R4
2年（1月）	63.5	62.1	61.4

(%)

＊学力定着把握検査の評価尺度では、学習到達ゾーンとして上位からS層、A層、B層、C層、D層と区分されている。その中でC層は基本的な問題に取り組むのに必要な知識が身についているとされる。

- 高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。

高等学校	R2	R3	R4
3年（3月）	95.4	95.0	95.0

高知県高等学校就職対策連絡協議会調査結果（%）

- 高校3年で「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

高等学校	R2	R3	R4
3年（9～12月）	85.9	86.7	85.0

高知県オリジナルアンケート結果（%）

現行の測定指標の調査が一部高校に対象が限定されたものであることから、県の高等学校全体の状況を表すために、全県立高校を対象とした測定指標に設定。また、高等学校段階の目指す姿である測定指標として、義務教育段階の基礎学力定着に課題があるD3層について設定する現行の形をやめ、「C層以上」を測定指標として設定。（従前の「D3層の減少」については、施策(2)「授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化（高等学校段階）の指標として設定）

進路の決定率は、高等学校に通うなかで、生徒が就職・進学等の自らが社会で進む進路を考え、それに向けた準備等をしっかりと行うことができるよう、学校が環境等を提供できたことの表れであるため、引き続き測定指標として設定。（ただし、「未定」率ではなく、肯定的な「決定」率で設定）

学校等の取組の結果、今後の社会において様々な課題に臨む「意欲」を身につけることができたかを測るため、また、学力検査に表れない資格の勉強や専門分野の勉強等にも意欲を有することができるかについて把握するため、測定指標を新設。

現行大綱の記載

「体」の分野

◆体の目標

「生涯にわたってたくましく
生き抜いていくための基礎
となる、体力や健康的な生活
習慣を身につけさせる。」

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣
等調査において、
- ・小・中学校の体力合計点は、
継続的に全国平均を上回る。

次期教育大綱の記載案

「健やかな体の育成と、 基本的な生活習慣の定着」

◆基本目標

「生涯にわたって、たくましく
生き抜いていくための基礎となる、
体力や健康的な生活習慣を育む。」

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣等
調査において、
- ・小・中学校の体力合計点は、
継続的に全国平均を上回る。
平成30年度*の全国平均値まで
改善させる。

小5年男子	H30	R3	R4	R5
高知県	53.90	52.75	52.78	53.09
全国	54.21	52.52	52.28	52.59

小5年女子	H30	R3	R4	R5
高知県	55.58	55.31	54.83	55.01
全国	55.90	54.64	54.31	54.28

中2年男子	H30	R3	R4	R5
高知県	42.94	41.90	41.26	41.66
全国	42.32	41.18	41.04	41.32

中2年女子	H30	R3	R4	R5
高知県	50.39	49.06	48.23	47.68
全国	50.61	48.56	47.42	47.22

体力合計点（点）

*平成30年度が全国・県ともに体力合計点のピークであった
ため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すことを目
指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」
を設定

見直しの考え方

小・中学校の体力合計点は、令和3～5年度全国平
均を高知県が上回っているため、その状態を維持する。
また、平成30年度が全国・県ともに体力合計点のピーク
であったため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すこ
とを目指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値まで
の改善」を設定。

現行大綱の記載

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
- ・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる。

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、
- ・総合評価でDE群*の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。

小5年男子	H30	R3	R4	R5
高知県	30.1	35.8	34.1	33.8
全国	28.8	36.2	37.0	35.8

小5年女子	H30	R3	R4	R5
高知県	23.8	24.9	28.4	26.4
全国	22.5	27.6	28.9	29.3

中2年男子	H30	R3	R4	R5
高知県	27.6	29.8	32.3	31.6
全国	27.8	32.7	33.5	32.7

中2年女子	H30	R3	R4	R5
高知県	11.7	15.4	16.6	17.9
全国	10.8	15.4	18.1	19.1

DE群の児童生徒の割合 (%)

*体力テスト合計得点の総合評価において、よい方からABCDEの5段階に分類された4・5段階に属する群

- ・「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。

中2年男子	R3	R4	R5
高知県	57.6	53.9	59.2
全国	56.4	56.5	59.8

中2年女子	R3	R4	R5
高知県	43.5	42.3	41.7
全国	43.8	41.7	41.9

「思う」と回答した生徒の割合 (%)

見直しの考え方

8

「DE群の児童生徒の割合」の測定指標についても、前頁の趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」に修正。

中学卒業後、自主的に運動やスポーツを行おうとする意欲は、コロナ等の影響を受けR4年度は、男女ともに前年度の県平均を下回った。特に、男子は下げ幅が大きく、全国平均を大きく下回っていた。R5年度女子はさらに下回ったが、男子は大きく改善し、回復の度合いに男女差が見られた。

子どもたちが生涯にわたって心身の健康を保持増進するためには、卒業後の運動習慣の形成が必要であり、体育・保健体育の授業改善の目標として国が学習指導要領においても示している。

そのような趣旨から「意欲」について測定指標として新設。

測定指標

(新設)

次期教育大綱の記載案

測定指標

●全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙において、

・規則正しい睡眠や食事などの基本的生活習慣に関する項目の肯定的割合が全国平均を上回る。

①「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

小6年	R3	R4	R5	中3年	R3	R4	R5
高知県	86.1	84.9	83.9	高知県	77.5	79.3	78.9
全国	85.8	84.9	83.7	全国	81.8	79.9	78.6

(%)

②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

小6年	R3	R4	R5	中3年	R3	R4	R5
高知県	81.0	82.1	80.5	高知県	80.5	83.4	81.4
全国	81.2	81.5	81.0	全国	79.8	79.9	78.0

肯定群の割合 (%)

③「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。

小6年	R3	R4	R5	中3年	R3	R4	R5
高知県	89.6	90.3	88.8	高知県	92.9	93.7	92.1
全国	90.4	90.4	90.5	全国	92.7	92.2	91.3

肯定群の割合 (%)

見直しの考え方

生涯にわたって生活をするうえでの基盤となる基本生活習慣の確立に係る測定指標を新たに設定。

「徳」の分野

- ◆徳の目標
「社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。」

「豊かな心の育成と、
多様性・包摂性を尊重する
教育の推進」

- ◆基本目標
「社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、自尊感情、夢や志、他者への思いやりや人権意識、規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性・社会性を育む。
また、「不登校」については、決して問題行動ではないことを前提として、
「魅力ある学校づくり」
「早期発見・早期支援」
「多様な教育機会の確保」
による支援を行う。」

「不登校」について、「いじめ」等の問題行動とは明確に別に位置付けられるものであることを明示し、その取組の方向性について新たに記載。

現行大綱の記載

測定指標

- 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査における道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。

- ・「自分には、よいところがあると思う」
- ・「将来の夢や目標を持っている」
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

次期教育大綱の記載案

測定指標

- 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査において、

- ・道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
(義務教育段階)

- ①「自分には、よいところがあると思う」
- ②「将来の夢や目標を持っている」
- ③「人が困っているときは、進んで助けている」
- ④「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」
- ⑤「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

小6年 (R5)	①	②	③	④	⑤
高知県	82.8	80.2	90.5	76.4	77.7
全国	83.5	81.5	91.6	76.5	76.8

中3年 (R5)	①	②	③	④	⑤
高知県	81.1	68.8	86.3	77.9	70.8
全国	80.0	66.3	88.1	77.6	63.9

肯定的割合 (%)

見直しの考え方

④は、基本目標の内容も受けて、多様性・包摂性についての理解の向上に係る測定指標を新たに設定。

⑤は、R5年度からの質問項目に修正

測定指標

(新設)

測定指標

- 県調査において、
 - ・ 道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。
(高等学校段階)
- ① 「自分という存在を大切に思える」
 - ② 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」
 - ③ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」
 - ④ 「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」

R4年度	①	②	③	④
高3年 (8~12月)	74.8	95.8	59.8	/

高知県オリジナルアンケート結果

肯定的割合 (%)

これまで高等学校段階における本項目に相当する測定指標がなかったため新たに設定。
また、高等学校段階においても、②に、多様性・包摂性についての理解の向上に係る測定指標を設定。

測定指標

- 生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる。

（新設）

測定指標

- 児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査において、
 - ・ 生徒指導上の諸課題（いじめ、暴力行為）の状況を改善させる。
- ① いじめの解消率を全国平均以上にする。
 - ② 暴力行為の発生件数を全国平均以下を維持する。

<いじめの解消率>

小・中・高・特支 (国公立)	R2	R3	R4
高知県	68.6	75.9	76.0
全国	77.4	80.1	77.1

(%)

（参考値）1,000人あたりのいじめの認知件数*

小・中・高・特支 (国公立)	R2	R3	R4
高知県	55.2	55.1	57.2
全国	39.7	47.7	53.3

(件)

*いじめの認知件数とは、「いじめはどの子どもにも起こり得る」という認識のもと、教職員等が積極的にいじめを把握し、対応した件数

（参考値）1,000人あたりのいじめの重大事態発生件数

小・中・高・特支 (国公立)	R3	R4
高知県	0.32	0.29
全国	0.05	0.07

(件)

<暴力行為の発生件数>

小・中・高 (国公立)	R2	R3	R4
高知県	11.0	10.7	4.6
全国	5.1	6.0	7.5

1,000人あたりの発生件数（件）

「不登校」の考え方については前述。
 中途退学率については、中途退学をすることが必ずしも「豊かな心を育成することができていない」と表現をする場合にも限られないことや、すでに中途退学率については全国・本県とも改善傾向にあり、県としても全国並の状況となっていることから、中途退学率は測定指標としては設定しない。
 代わりに、「問題行動」である「いじめ」「暴力行為」の有無については、基本目標として掲げている「豊かな人間性・道徳性・社会性」が育まれているか否かについての成果として表れるものであり、新たに測定指標として設定。

測定指標

- 生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる。

（新設）

測定指標

- 児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題において、
 - ・ 不登校について、
 - ① 1,000人あたりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下を維持する（小・中・高）。
 - ② 不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる（小・中・高）。

<新規不登校児童生徒数>

（国公立）	R2	R3	R4
県小学校（全国）	6.4 (5.6)	7.8 (7.2)	7.5 (9.2)
県中学校（全国）	23.0 (18.4)	26.5 (24.5)	24.0 (28.1)
県高等学校（全国）	9.7 (10.1)	10.4 (12.8)	9.5 (15.2)

1,000人あたりの新規不登校児童生徒数（人）

（参考値）不登校児童生徒数

（国公立）	R2	R3	R4
県小学校（全国）	11.8 (10.0)	14.8 (13.0)	15.1 (17.0)
県中学校（全国）	50.5 (40.9)	61.2 (50.0)	59.9 (59.8)
県高等学校（全国）	17.4 (13.9)	18.0 (16.9)	17.6 (20.4)

1,000人あたりの不登校児童生徒数（人）

<学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合>

（国公立）	R2	R3	R4
県小中学校（全国）	93.1 (65.7)	92.6 (63.7)	92.1 (61.8)
県高等学校（全国）	71.6 (61.5)	65.0 (59.4)	68.8 (59.2)

(%)

高い新規出現率がある本県において、基本目標に記載の通り、早期把握・早期支援を図る取組を行うことを一つの対応の柱として位置付ける測定指標を設定。併せて、不登校となった児童生徒がいつでもどこでも多様な学習の機会を確保できる学習支援をはじめとした支援を学校内外で受けることができるような環境整備を目指し、もう一つの対応の柱として位置付ける測定指標を設定。（なお、この不登校に係る測定指標については、高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会の今後の議論を踏まえ、次年度以降、改訂する可能性がある。）